

2級 学科試験問題

1. 試験時間 60分

2. 問題数 50題 A群（真偽法25題）及びB群（多肢択一法25題）

3. 注意事項

- (1) 携帯電話、腕時計型端末の使用は禁止します。（電源は予め切り、バック等にしまって下さい）。
- (2) 机上に受検票及び筆記用具以外のものを置いてはいけません。
- (3) 電子式卓上計算機、その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (4) 試験官の指示があるまで、この表紙を開けてはいけません。
- (5) 試験官の指示に従って、試験問題のページ数を確認してください。もし、異常があった場合には、黙って手を挙げて下さい。
- (6) 解答用紙はマークシートです。必ず鉛筆又はシャープペンシルを使用して下さい。
- (7) 解答用紙には、等級、受検番号、氏名を必ず記入し、受検番号の欄は、受検区分と受検番号を必ずマークして下さい。
- (8) 試験官の指示に従って、試験を開始して下さい。
- (9) 問題は、A群（真偽法25題）及びB群（多肢択一法25題）の50題です。
 - ① 真偽法は、問題の内容が正しいか誤っているかを判断し、解答用紙に正か誤のどちらか一つを記入します。
 - ② 多肢択一法は、問題に対応する選択肢の中で、正解と思う選択肢を一つ選び、解答用紙に記入します。
 - ③ 解答用紙の注意事項を必ず確認し、A群、B群の解答欄を間違わないように記入して下さい。
- (10) 試験中、質問があるときは、黙って手を挙げて下さい。ただし、漢字の読み方を含めて、試験問題の内容についてはお答えできません。また、退室後は試験が終了するまで再入室ができません。
- (11) 試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて試験官の指示に従って下さい。試験開始後30分間は退出できません。
- (12) 試験中にトイレに行きたい場合は、黙って手を挙げて試験官の指示に従って下さい。
- (13) 試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、試験官の指示に従って下さい。
- (14) 試験終了後、解答用紙は提出して下さい。問題用紙は持ち帰って下さい。

■ A群（真偽法）

1. カーペットをグリッパーという引っ掛け金具に固定させる方法を、直貼り（じかばり）工法という。
2. 労働災害の発生は、物的原因と人的原因が絡み合って発生することはほとんどない。
3. 高性能真空掃除機は、高い衛生上の管理が必要な、病院、クリーンルームで使用される。
4. 油溶性物質の除去は、界面活性剤を主剤とする合成洗剤を用いる。
5. pH8のものと比較すると、pH9のものはアルカリ性が10倍である。
6. モルタルは、セメントと砂及び砂利を適当な割合で混ぜ合わせたものである。
7. 廃棄物を少なくするための循環型社会形成の取組みを、3Rという。
8. 感染が発生する重要な感染経路として、接触感染、飛沫感染、空気感染の3つがある。
9. ポリッシャーは床磨き（みがき）機ともいい、床の洗浄や床維持剤の塗布及び剥離に使用する機械である。
10. モルタルかすや、ガムなどの厚みのある汚れを、かさ高固着物という。
11. カーペット用洗剤は、繊維に安全で色落ちや退色しないよう酸性タイプが使われている。
12. ビニル系床材のうち、シート状床材はタイル状床材に比べ、継ぎ目が多く歩行感や静音性に劣る床材である。
13. 事業系廃棄物の処理責任は、テナントや建築物所有者にある。
14. 自在ぼうきは、机の下や部屋の隅々を掃くには不向きである。
15. 自動床洗浄機を使う際は、手作業の補修は不要である。
16. 管理用区域とは建築物の維持管理を目的に使用される区域である。
17. 粉化（パウダリング）とは、床維持剤を低温時や高湿度の条件下で塗布した時に生じる現象である。

18. 界面活性剤は、水になじむ性質と油脂に、なじむ性質を両方備えた物質である。
19. 浮遊粉じんの量は、建築物環境衛生管理基準により、空気 1 m³ に対し 0.2mg 以上と定められている。
20. エレベータ溝の固着物を除去するのにドライバーを使用する。
21. 建材に洗剤分が残っていると、洗剤分の効果で汚れにくくなる。
22. カーペットのパイルの間に入ったほこりを除去するのは、ポット型よりアップライト型の真空掃除機の方が適している。
23. ポリマータイプの床維持剤を床面に塗ると、フィルム状の皮膜が形成される。
24. 外装仕上げ材として使用されるセラミックタイルは、吸水率の多い磁器質が多く用いられている。
25. 建築物清掃の目的の一つは、衛生的環境の確保である。

■ B群（多肢選択法）

1. 次の整理整頓の中で、最も不適切なものはどれか。
 - イ 清掃作業中の資機材は、整理して置けば標示板等は不要である
 - ロ 倉庫内の不要なものは、常に取り除き適切に処理する
 - ハ 資材の積み上げの高さは、底の幅の3倍以下である
 - ニ 整理整頓を徹底することで、労働災害発生を減らすことができる

2. ビル内で行われる系内処理で、最も不適切なものはどれか。
 - イ 焼却
 - ロ 収集
 - ハ 一時貯留
 - ニ 運搬

3. 日常清掃の作業内容のうち、最も不適切なものはどれか。
 - イ 乾式モップによる床のほこり取り
 - ロ 金属部分のみがき
 - ハ 灰皿清掃・紙くず処理
 - ニ 出入り口マットの除じん

4. 湿式モップの種類の中で、最も不適切なものはどれか。
 - イ T字モップ
 - ロ ワンタッチモップ
 - ハ プレスモップ
 - ニ ダストクロスモップ

5. 真空掃除機の取り扱い注意事項の中で、最も不適切なものはどれか。
 - イ 濡れた手で取り扱わない
 - ロ 布フィルターは洗濯（水洗い）しない
 - ハ 延長ホースや延長コードはできるだけ使用しない
 - ニ ドライ型の場合は濡れた床で使用しない

6. 次の計算式の中で、最も適切な希釈倍率の計算式はどれか。
 - イ 希釈倍率 = 水の量 ÷ (洗剤原液の量 + 水の量)
 - ロ 希釈倍率 = (洗剤原液の量 + 水の量) ÷ 洗剤原液の量
 - ハ 希釈倍率 = (洗剤原液の量 + 水の量) ÷ 水の量
 - ニ 希釈倍率 = 洗剤原液の量 ÷ (洗剤原液の量 + 水の量)

7. 外装仕上げ材のうち、金属系でないものはどれか。
 - イ アルミニウム
 - ロ ステンレススチール
 - ハ 鋼板（ホーロー・耐候性）
 - ニ セラミックタイル

8. 次の中で天然石材でないものはどれか。
- イ 御影石
 - ロ レジンテラゾ
 - ハ ビアンコカラーラ
 - ニ トラバーチン
9. 次の労働災害発生状況のうち、最も適切なものはどれか。
- イ 全体の7割を50歳以上の年齢層が占めている
 - ロ 事故の全体の4割が墜落・転落である
 - ハ 事故が最も多い清掃作業場所は、外周である
 - ニ 事故の約2割が転倒である
10. 標準作業時間の条件で正しいものは次のうちどれか。
- イ 所定の作業環境の下
 - ロ 複数の異なる資機材を使用
 - ハ 複数の異なる作業方法
 - ニ 不慣れな人
11. 作業計画と安全作業に最も不適切なものはどれか。
- イ 安全な作業方法に基づいて作業計画を作成する
 - ロ 作業環境の点検および整備を行う
 - ハ 準備・段取り・確認を十分に行う
 - ニ 経費の削減に努める
12. 次の道具と特長の組合せの中で、最も不適切なものはどれか。
- イ 小ぼうき — 鍵などの埃を払う
 - ロ 座敷ぼうき — 畳の掃除など日本家屋に適したほうきである
 - ハ 自在ぼうき — 万年ほうきとも呼ばれ、おもに屋外で使用される
 - ニ 片手ぼうき — 柄が短く片手でも使えるほうきである
13. 床用パッドの粗さを「細かいから粗い」順に並べた組合せで、正しいのは次のうちどれか。
- イ 白→青→茶→緑→黒
 - ロ 白→青→赤→緑→黒
 - ハ 白→赤→緑→青→黒
 - ニ 白→赤→緑→茶→黒
14. 次の中で、洗剤の使用上、最も不適切なものはどれか。
- イ 洗剤の選定を誤らないこと
 - ロ 希釈には温水(40℃)を使用すること
 - ハ 作業後のすすぎは十分に行うこと
 - ニ 一定以上の濃度で使用する

15. 次のステンレス表面仕上げ法の中で、最も不適切な仕上げ法はどれか。
- イ エッチング仕上げ
 - ロ 小叩き仕上げ
 - ハ ヘアライン仕上げ
 - ニ ダル仕上げ
16. 次の中で建築物環境衛生管理基準に定められていないものはどれか。
- イ 浮遊粉じんの量
 - ロ 温度
 - ハ ホルムアルデヒドの量
 - ニ ベンゼンの量
17. 廃棄物処理法（略称）に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
- イ 廃棄物とは、不要物であって、固形状、液状及び気体状のものをいう
 - ロ 特別管理廃棄物とは、産業廃棄物のうち人の健康などに影響を与える廃棄物をいう
 - ハ 廃棄物は、一般廃棄物と産業廃棄物に分類される
 - ニ 事業系廃棄物は、排出者自らの責任において適正に処理する
18. 循環型社会の促進に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。
- イ 廃棄物の排出抑制
 - ロ 廃棄物の再使用
 - ハ 廃棄物の混合処理
 - ニ 廃棄物の再利用
19. 建物清掃のうちの定期作業でないものはどれか。
- イ 床面の洗淨
 - ロ 壁面・柱などの低所部分の除じん
 - ハ フロアマットの洗淨
 - ニ 照明器具・給排気口・ブラインドの清掃
20. 建築物に異物が付着する原因の中で、最も人為的原因ではないものはどれか。
- イ 手あか・分泌物・排泄物・抜毛
 - ロ カビや衛生害虫などの発生による汚れ
 - ハ 飲食物やタバコの灰
 - ニ 衣服などの摩耗粉や繊維くず
21. 次の機械と特長の組合せの中で、最も不適切なものはどれか。
- イ 自動床洗淨機 — 洗淨液塗布、洗淨、汚水回収の3工程を行う
 - ロ エクストラクタ — カーペット床の清掃に使用される
 - ハ スチーム洗淨機 — 弾性床の清掃に使用される
 - ニ 高速バフマシン — 床維持剤の光沢復元と強固な皮膜を形成する

22. 次の pH (ペーハー) 値と酸性・アルカリ性の組合せで、最も適切なものはどれか。
- イ pH 0 から 3 — アルカリ性
 - ロ pH 8 から 11 — 弱酸性
 - ハ pH 7 — 中性
 - ニ pH 3 から 6 — 弱アルカリ性
23. 次の中でステンレススチールの表面仕上げ法でないものはどれか。
- イ ヘアライン仕上げ
 - ロ 鏡面仕上げ
 - ハ バイブレーション仕上げ
 - ニ コーティング仕上げ
24. カーペットの製造方法による分類で、パイルのないものはどれか。
- イ ニードルパンチカーペット
 - ロ ウィルトンカーペット
 - ハ タフトドカーペット
 - ニ タイルカーペット
25. 建築物清掃技術基準策定の目標として、最も不適切なものはどれか
- イ 環境負荷の低減
 - ロ 環境衛生の向上
 - ハ 環境保護の優先
 - ニ 作業能率の向上

2級 学科試験問題

< 正 解 >

A群 真偽法	
設問	解答
1	誤
2	誤
3	正
4	正
5	正
6	誤
7	正
8	正
9	誤
10	正
11	誤
12	誤
13	正
14	誤
15	誤
16	正
17	正
18	正
19	誤
20	誤
21	誤
22	正
23	正
24	誤
25	正

B群 多肢択一法	
設問	解答
1	イ
2	イ
3	ロ
4	ニ
5	ロ
6	ロ
7	ニ
8	ロ
9	イ
10	イ
11	ニ
12	ハ
13	ニ
14	ニ
15	ロ
16	ニ
17	イ
18	ハ
19	ロ
20	ロ
21	ハ
22	ハ
23	ニ
24	イ
25	ハ